

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立高校体育系連絡協議会 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	1年：240名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名（ 体育系連絡協議会 ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する知識・理解・関心の向上を図り、その精神を学ぶとともに、スポーツの価値を実感し、スポーツへの多様な関わり方について深く考える機会とする。また、東京オリパラ実施以降のスポーツ文化の広がりにも貢献する人材を育成する。
5 取組内容	<p>スポーツ健康科学科設置校である乙訓高校及び普通科スポーツ総合専攻設置校である洛北高校・鳥羽高校・久御山高校・西城陽高校・綾部高校により組織された府立高校体育系連絡協議会において取組を実施。</p> <p>(1) 講演（オンライン）令和3年12月9日（木） 講師 山西 利和 氏 <陸上競技：競歩> 東京オリンピック 銅メダル（20km 競歩） 各校1年生を対象に実施。将来のスポーツ文化発展の担い手となることが期待される生徒たちが、山西選手の体験談や考え方を聞く中で、スポーツの価値や意義について再認識するとともに、自分の「今」、そして「将来」を考える機会とした。</p> <p>(2) 研究発表会（オンライン） 将来のスポーツ文化発展の担い手となる体育系の生徒が、研究発表会を通じての学びを広く共有することにより、スポーツの価値や効果、スポーツへの多様なかわり等についてより深く考える機会とする。 各校において、体育系コースでのこれまでの学びを踏まえ、自ら設定した課題について、個人やグループで調査・実験・文献研究等に取り組み、6校の生徒が一堂に会する場で、校内選考で選ばれた優秀な研究の発表を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、オンライン形式による発表会とした。</p>
6 主な成果	<p>(1) 講演 生徒たちは、トップアスリートである山西選手の競技者としての考え方やオリンピックでの体験談に触れた。「失敗を恐れず挑戦すること」、「今ある環境に感謝しそれらを活かすこと」、「自分を信じることの大切さ」を、実際に世界の大舞台で戦われた山西さんから学</p>

	<p>び、卓越・挑戦の気持ちをもって自身の専門競技に打ち込む意欲を改めて高めることができた。また、スポーツの価値や意義、スポーツとの多様な関わり方について見つめることができた。</p> <p>(2) 研究発表</p> <p>新型コロナウイルス感染症に係り、オンラインによる開催となったが、課題研究において、自分たちでテーマを設定し、仲間と意見を交わしながら試行錯誤を繰り返し、結論を導き出すとともに、研究発表大会において、その成果を広く共有する取組により、「主体的、対話的で深い学びを」実現することができた。</p> <p>自分自身の競技力向上に向けた考え方や意識を見つめ直すとともに、将来のスポーツ文化の担い手として、今後の体育系コースの学びの中で、これまで以上に深く考えていくよいきっかけになったと考える。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 講演</p> <p>東京オリンピックにおいて銅メダルを獲得された山西選手の、競技生活における努力の在り方や苦悩されてきた一面を、一斉講義及び質疑応答する形式で実施した。各校で山西選手や世界陸上、オリンピック等について事前学習を行った上で、競技の枠を超えて関心のある内容や質問したい内容をアンケートで集約し、各校からそれを踏まえて質問を行った。また、各校における事後学習として、感想文をもとに互いの考えを共有する機会をもち、講演を受けての考えをより深めた。</p> <p>(2) 研究発表大会</p> <p>発表後に質疑応答の時間を設け、内容をより深めることができた。本研究発表会を成果発表の場にとどめるのではなく、「2020 オリンピック・パラリンピック」も踏まえ、今後の一層の競技力向上やより発展的な研究へとつながる機会となるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>新型コロナウイルスの感染症の影響により、6校が合同で実施する事業がリモートとなり、より限定的なものとなった。時間の制約もあり、これまでの成果・課題を踏まえ、実施内容の精選についても検討していく必要がある。しかしながら、京都府内体育系6校が連携し、京都府の体育・スポーツの発展に寄与することは非常に意義深いことであると考え。それらを踏まえ、各校独自の取組との効果的なリンクについて、より検討を進める必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>講演会の実施にあたっては、対象が高校1年生にあたることから、スポーツを「する・みる・支える・知る」の4つの視点を踏まえつつ、対象学年に適切な講師を選定していく必要がある。</p>